

動物実験申請書

大阪府立大学長様

平成 26年 3月 4日

84

部局名(研究科・機構)	生命環境科学研究所 獣医学専攻
分野(研究G)名等	獣医臨床科学分野(獣医内科学研究室)
動物実験責任者職・氏名	准教授 谷 浩行 印合
連絡先内線	2469 E-mail: tanisi@vet.osakafu-u.ac.jp

大阪府立大学動物実験規程第8条、第9条及び第11条の規定に基づき、下記のとおり申請します。

※動物実験責任者が有期雇用の場合は実施期間は有期雇用の期間内とすること。

※変更申請の場合は、変更箇所及び変更内容を赤枠で囲み、(1?)に理由を記載すること。

(1) 申請区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規申請 <input type="checkbox"/> 変更申請 <input type="checkbox"/> 中止申請 <input type="checkbox"/> 中間報告 <input type="checkbox"/> 終了報告					承認済み番号	動物実験 - 号			
(2) 研究課題名	獣医科臨床実習(実習)									
(3) 研究目的	伝染病を除く小動物の疾患、主に呼吸器・循環器系の疾患、体表・皮膚疾患および消化器系の内科疾患の診断と治療に関する基礎的技術の習得を目的とする									
(4) 動物実験及び飼養者	部局名	職名・学年	氏名	承認番号	備考	部局名	職名・学年	氏名	承認番号	備考
	生命環境科学研究所 獣医学専攻 教授	笹井和美	生25-研-14							
	生命環境科学研究所 獣医学専攻 准教授	谷 浩行	生25-研-15							
	生命環境科学研究所 獣医学専攻 助教	古家 優	生25-研-16							
(5) 実施期間	承認後 ~ 平成 27年 3月 31日(最長5年間)				承認済み実施期間(新規以外)		平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			
(6) 施設名等	飼養保管施設	りんくうキャンパス動物科学教育研究センター棟				実験室	りんくうキャンパス第4実習室			
	施設許可番号	動物施設 21-4号、21-8号				施設許可番号	動物施設 21-20号			
(7) 使用動物	動物種	系統名		性別	頭数/年	頭数/5年	微生物学的品質	入手先(導入機関名)	備考	
	犬	ビーグル種		雄/雌	8頭(雄4・雌4)/年		コンベンショナル	[REDACTED]		
概要(研究計画と方法について、その概要を記入する) <input checked="" type="checkbox"/> 材料採取 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換実験 <input checked="" type="checkbox"/> 試料投与 <input type="checkbox"/> 抗体作製 <input type="checkbox"/> 感染実験 <input type="checkbox"/> RI実験 <input type="checkbox"/> 胚操作関連 <input checked="" type="checkbox"/> 外科的処置 <input type="checkbox"/> 行動の観察 <input type="checkbox"/> 環境ストレス <input type="checkbox"/> 繁殖 <input type="checkbox"/> 特殊飼育 <input checked="" type="checkbox"/> その他(超音波画像診断装置を用いた撮像)										
中動物、特に犬を用いて、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査法、画像診断検査法について実習を行う。										
実験方法(動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。)										
(8) 研究計画と方法	内容					該当SCAWの カテゴリー	麻酔法・麻酔薬等 (具体的な薬剤名及びその投与量・経路)			
	■材料採取 採尿(無麻酔にて尿カテーテル(1頭あたり2~3回程度の留置・抜去を行う)、および超音波画像診断装置の誘導下における細針注射針を用いた膀胱穿刺による採尿(1頭あたり2~3回程度穿刺する。)、採血(頸静脈、橈側皮靜脈、サフェナから採血する。)実習・1頭あたり最大10回程度、1回0.5ml程度採取する。)、経皮穿刺吸引細胞採取(無麻酔、超音波画像診断装置の誘導下において細針注射針を用いて肝臓、脾臓を穿刺する。1頭あたり肝臓あるいは脾臓を2~3回程度穿刺する。)の実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生素質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルブロフェン2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治療が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。					A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	なし			
	□遺伝子組換実験					A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>				
	■試料投与 投薬法(経口投与、経鼻投与、皮下投与、皮内投与、静脈内投与、および、筋肉内投与を実施、投与薬剤は滅菌生理食塩水、投薬用カプセルを用いる)の実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生素質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルブロフェン2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治療が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。					A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	なし			
	□抗体作製					A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>				
	□感染実験					A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>				
	□RI実験					A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>				
	□胚操作関連					A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>				

■外科的処置	皮膚生検（塩酸リドカインの投与による局所麻酔下で1頭あたり2~3部位、3mm径の生検トレパンを使用）を行う。本方法は、一般的に小動物臨床現場にて用いられるすでに確立された方法であり教科書レベルで記載周知されている。これらの実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行う。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E □ □ ■ □ □	塩酸リドカイン、術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml皮下注射
□行動の観察		A B C D E □ □ □ □ □	
□環境ストレス		A B C D E □ □ □ □ □	
□繁殖		A B C D E □ □ □ □ □	
□特殊飼育		A B C D E □ □ □ □ □	
■その他	超音波画像診断装置を用いて無麻酔下で胸部臓器、腹部臓器の撮像、観察を行う。使用する超音波画像診断装置は人および動物の医療用として用いられているものであり、また、実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E □ ■ □ □ □	なし

(8) 研究計画 と方法	動物実験の妥当性	
	中型動物(犬)の生体の取り扱い方法の習熟を目的とした実習であり、他に代替手段がない	
(9) 特殊実験 区分 (該当項目 全てに印)	使用動物数の妥当性	
	犬1頭あたり、少なくとも5名の学生が実習する必要があり、使用動物数は必要最低限以下である。	
	<input type="checkbox"/>	1 感染実験 安全度分類： <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3 (許可番号：)
	<input type="checkbox"/>	2 遺伝子組換え動物使用実験 区分： <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A (許可番号：)
	<input type="checkbox"/>	3 放射性同位元素使用実験 (許可番号：)
<input type="checkbox"/>	4 覚醒剤原料・特定毒物・向精神薬・麻薬等： <input type="checkbox"/> 覚醒剤原料 <input type="checkbox"/> 特定毒物 <input checked="" type="checkbox"/> 向精神薬 <input checked="" type="checkbox"/> 麻薬 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (注射用麻酔薬、劇薬、処方箋医薬品) (管理者氏名： 谷 浩行 免許(許可)番号： 獣医師登録番号：) 試薬名：ペントバルビタールナトリウム(商品名ソムノベンチル共立製薬 動物用医薬品)(バーコード番号：) 試薬名：塩酸リドカイン(商品名キシロカイン アストラゼネカ株式会社)(バーコード番号：)劇薬、処方箋医薬品	
(10) 動物実験 の種類	<input type="checkbox"/> 1 試験・研究 <input checked="" type="checkbox"/> 2 教育・訓練 <input type="checkbox"/> 3 その他 ()	
(11) 動物実験 を必要とする 理由	<input checked="" type="checkbox"/> 1 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった	
	<input type="checkbox"/> 2 検討したが、代替手段の精度が不十分だった	
	<input type="checkbox"/> 3 その他 ()	
(12) 想定され る苦痛の カテゴリー (総合評価)	<input type="checkbox"/> B 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいは全く不快感を与えないと思われる実験	
	<input checked="" type="checkbox"/> C 脊椎動物を用い、動物に対し軽度のストレス又は痛み(短期間持続するもの)を伴うと思われる実験	
	<input type="checkbox"/> D 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレス又は痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験	
	<input type="checkbox"/> E 無麻醉下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い又はそれ以上の痛みを与えると思われる実験	
	<input type="checkbox"/> F 短時間の保定・拘束及び注射等、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない	
(13) 動物の 苦痛軽減、 排除の 方法	<input type="checkbox"/> G 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない()	
	<input checked="" type="checkbox"/> H 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する(具体的な薬剤名及びその投与量・経路を記入) (塩酸リドカイン：術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml注射、カルプロフェン：2.2 mg/kgを経口投与)	
	<input checked="" type="checkbox"/> I 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとる等の人道的エンドポイントを考慮する(明らかな臨床症状を示し、回復の見込みのない場合にはペントバルビタールNa投与によって安楽死措置を施す。)	
	<input type="checkbox"/> J 実験終了後の処置として、安楽死措置をとる。	
	<input type="checkbox"/> K その他(具体的に記入：)	
(14) 安楽死の 方法 (該当項目 全てに印)	<input checked="" type="checkbox"/> L 麻酔薬等を使用する(具体的な薬剤名及びその投与量・経路を記入) (ペントバルビタールナトリウム、50mg/kg、静脈内投与)	
	<input type="checkbox"/> M 炭酸ガス	
	<input type="checkbox"/> N 中枢破壊(具体的に記入： 法)	
	<input checked="" type="checkbox"/> O 安楽死させない(その理由を記入：実習中の施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合の人道的見知から行う安楽死措置を除き、本実習では安楽死を行はず他の実習(獣医解剖学実習)に使用する。動物愛護の観点から、飼育に伴うストレスを最小限にするため、綿密な日程調整を行い、本実習終了後、出来るだけ速やかに受け渡しを行う。なお飼育期間中は動物愛護にのっとった飼育管理に努め、明らかな臨床症状を呈した場合、抗生素質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等の処置により治療するまで治療を継続する。)	
	<input type="checkbox"/> P 1 飼養保管施設に委託(施設名：)	
<input checked="" type="checkbox"/> Q 2 その他(具体的に記入：大阪府家畜保健衛生所にて焼却)		
(16) その他 必要又は 参考事項	(過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会への申請状況等を記入する) 平成21年4月1日から平成26年3月31日まで、本学動物実験規程に従い動物実験計画書の提出および承認を得た内容について(動物実験21-73号、一部変更申請承認済(平成22年6月))、新たに申請するものである。	
(17) 変更箇所及 び変更理由	(変更申請の箇所及び変更理由を記入する)	

※この欄は、 中止申請書 中間報告書 終了報告書 として記載 すること。	実験結果		<input type="checkbox"/> 計画通り実施 <input type="checkbox"/> 一部変更して実施 <input type="checkbox"/> 中止(理由：)					
	実験の総括	実験内容のまとめ						
		苦痛の軽減・排除など動物福祉に配慮した点						
		問題点・反省点等						
	実験中に生じた動物管理上の異常		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(具体的事象：)					
	実験動物 の種と 使用頭数	動物種	系統の種類	系統数	使用動物数	維持動物数	総数	備考
		<input type="checkbox"/> 非組換え	<input type="checkbox"/> 組換え					使用動物数は、報告する期間中に安楽死措置(自然死を含む)した総数。但し胎仔(誕生前)を使用した場合、母獣の数を記載する。
		<input type="checkbox"/> 非組換え	<input type="checkbox"/> 組換え					
	動物の搬入 について (動物を搬入した場 合記載)	検疫の結果		<input type="checkbox"/> 異常無し <input type="checkbox"/> 異常有り	月	日搬入分	(対処結果：)	
		輸送について		<input type="checkbox"/> 異常無し <input type="checkbox"/> 異常有り	月	日搬入分	(対処結果：)	
	得られた業績を記載する。雑誌論文、図書、工業所有権などについて、著者名、論文課題、雑誌名、巻・年号、発表年、ページ、出版社などを記載							

部局名	生命環境科学研究所	職・氏名	准教授	谷 浩行
-----	-----------	------	-----	------

46名

府大教推第 1009 号
平成 26 年 4 月 30 日

生命環境科学研究所長 様

大阪府立大学長

動物実験計画の申請について（通知）

平成 26 年 3 月 4 日 付けの下記申請については承認 とする。

記

研究科・学部等、 専攻等、研究室等	生命環境科学研究所
職名・実験責任者	准教授 谷 浩行
承認年月日・承認番号	平成 26 年 3 月 4 日 動物実験 25 - 71 号
有効期間	平成 26 年 3 月 4 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日
課題名	獣医内科臨床実習（実習）
備考	0

(8) 研究計画 と方法	動物実験の妥当性 中型動物(犬)の生体の取り扱い方法の習熟を目的とした実習であり、他に代替手段が無い	
	使用動物数の妥当性 犬1頭あたり、少なくとも5名の学生が実習する必要があり、使用動物数は必要最低限以下である。	
(9) 特殊実験 区分 (該当項目 全てに印)	<input type="checkbox"/>	1 感染実験 安全度分類： <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3 (許可番号：)
	<input type="checkbox"/>	2 遺伝子組換え動物使用実験 区分： <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A (許可番号：)
	<input type="checkbox"/>	3 放射性同位元素使用実験 (許可番号：)
	<input type="checkbox"/>	4 覚醒剤原料・特定毒物・向精神薬・麻薬等： <input type="checkbox"/> 覚醒剤原料 <input type="checkbox"/> 特定毒物 <input checked="" type="checkbox"/> 向精神薬 <input type="checkbox"/> 麻薬 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (注射用麻酔薬) (管理者氏名： 谷 浩行 免許(許可)番号： 獣医師登録番号：) 試薬名：ペントバルビタールナトリウム (商品名ソムノベンチル、動物用医薬品) (バーコード番号：)
(10) 動物実験 の種類	<input type="checkbox"/> 1 試験・研究 <input checked="" type="checkbox"/> 2 教育・訓練 <input type="checkbox"/> 3 その他 ()	
(11) 動物実験 を必要とする 理由	<input checked="" type="checkbox"/>	1 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった
	<input type="checkbox"/>	2 検討したが、代替手段の精度が不十分だった
	<input type="checkbox"/>	3 その他 ()
(12) 想定され る苦痛の カテゴリー (総合評価)	<input type="checkbox"/>	B 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいは全く不快感を与えないと思われる実験
	<input checked="" type="checkbox"/>	C 脊椎動物を用い、動物に対し軽度のストレス又は痛み（短期間持続するもの）を伴うと思われる実験
	<input type="checkbox"/>	D 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレス又は痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験
	<input type="checkbox"/>	B 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い又はそれ以上の痛みを与えると思われる実験
(13) 動物の 苦痛軽減、 排除の 方法	<input type="checkbox"/>	1 短時間の保定・拘束及び注射等、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない
	<input type="checkbox"/>	2 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない ()
	<input checked="" type="checkbox"/>	3 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する (具体的な薬剤名及びその投与量・経路を記入) (塩酸リドカイン：術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml注射、カルプロフェン：2.2 mg/kgを経口投与)
	<input checked="" type="checkbox"/>	4 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとる等の人道的エンドポイントを考慮する
	<input type="checkbox"/>	5 実験終了後の処置として、安楽死措置をとる。
	<input type="checkbox"/>	5 その他 (具体的に記入：)
(14) 安楽死の 方法 (該当項目 全てに印)	<input checked="" type="checkbox"/>	1 麻酔薬等を使用する (具体的な薬剤名及びその投与量・経路を記入) (ペントバルビタールナトリウム、50mg/kg、静脈内投与)
	<input type="checkbox"/>	2 炭酸ガス
	<input type="checkbox"/>	3 中枢破壊 (具体的に記入： 法)
	<input checked="" type="checkbox"/>	4 安楽死させない (その理由を記入：実習中の施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合の人道的見知から行う安楽死措置を除き、本実習では安楽死を行わず他の実習 (獣医解剖学実習) に使用する。動物愛護の観点から、飼育に伴うストレスを最小限にするため、綿密な日程調整を行い、本実習終了後、出来るだけ速やかに受け渡しを行う。なお飼育期間中は動物愛護にのっとった飼育管理に努め、明らかな臨床症状を呈した場合、抗生素質 (セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤 (カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬 (イソジン外用薬) 等の処置により治療するまで治療を継続する)
(15) 動物死体 の処理方法	<input checked="" type="checkbox"/>	1 飼養保管施設に委託 (施設名：大阪府家畜保健衛生所にて焼却)
	<input type="checkbox"/>	2 その他 (具体的に記入：)
(16) その他 必要又は 参考事項	(過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会への申請状況等を記入する) 安楽死を除く内容に関しては、平成20年度に生命環境科学研究科動物実験委員会規程に従い、動物実験計画書の提出及び承認を得ていた (20-K-014)。平成22年6月の変更申請により本動物実験計画書の内容に変更することを承認されている。	
(17) 変更箇所及 び変更理由	(変更申請の箇所及び変更理由を記入する)	

※この欄は、 中止申請書 中間報告書 終了報告書 として記載 すること。	実験結果		<input checked="" type="checkbox"/> 計画通り実施 <input type="checkbox"/> 一部変更して実施 <input type="checkbox"/> 口頭中止 (理由：)					
	実験内容のまとめ		獣医学科の4回生に対して、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査、画像診断検査について実習を実施した。					
	実験の総括		すべての動物は熟練した獣医師の監視のもと動物福祉のガイドラインに従った方法で行い、飼育期間中は動物愛護にのっとった飼育管理に努めた。事前に一般身体検査を行い、明らかな異常が認められないことを確認の上、実習に用いた。侵襲を伴う実習では、局所麻酔薬 (塩酸リドカイン) を適時使用し、また使用頭数を減じ個体の入れ替えを行うことにより一頭あたりが受ける苦痛の軽減を図った。実施期間内の実習を遂行するにあたり、実習後の抗生素質 (セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤 (カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬 (イソジン外用薬) 等の処置により、明らかな臨床症状を呈した個体は認められなかった。また、動物愛護の観点から、使用個体の減数を目的として、同時期に行われる細胞病理学実習と同一個体を共用した。担当研究室間で実習項目を協議・吟味し、一般的に小動物臨床現場で用いられるすでに確立されたストレスレベルの低い技術を重点的に選択するとともに、同様の実習内容をどちらかの実習で統一して行うことにより、個体に与える苦痛を軽減した。					
	問題点・反省点等		動物実験計画書に従って行い倫理基準カテーテゴリーの遵守を徹底した。					
	実験中に生じた動物管理上の異常		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (具体的な事象：)					
	実験動物の種類と 使用頭数		動物種	系統の種類	系統数	使用動物数	維持動物数	総数
		犬	<input checked="" type="checkbox"/> 非組換え <input type="checkbox"/> 組換え	1	8	0	8	使用動物数は、報告する期間中に安楽死措置 (自然死を含む) した総数。但し胎仔 (誕生前) を使用した場合、母獸の数を記載する。
動物の搬入 について (動物を搬入した場 合記載)		検疫の結果		<input checked="" type="checkbox"/> 異常無し <input type="checkbox"/> 異常有り 月 日搬入分 (対処結果：)				
		輸送について		<input checked="" type="checkbox"/> 異常無し <input type="checkbox"/> 異常有り 月 日搬入分 (対処結果：)				

実験の成果 (予定を含む)	得られた業績を記載する。雑誌論文、図書、工芸所有権などについて、著者名、論文課題、雑誌名、巻・年号、発表年、ページ、出版社などを記載 学生実習において、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査、画像診断検査に関する基本的な手技を習得させ、基本原理の理解を深めさせることができた。
------------------	---

部局名	生命環境科学研究科	職・氏名	教授	笹井和美
-----	-----------	------	----	------

整理番号	25-71
------	-------

部局実験動物管理 者の書類確認 〔押印省略〕	職・氏名	
	年月日	平成 年 月 日

平成26年度 □動物実験申請書 ■実施状況報告書

平成 27年 5月 27日

大阪府立大学長 様

部局名（研究科・機構）	生命環境科学研究所 獣医学専攻
分野（研究G）名等	獣医臨床科学分野（獣医学研究室）
動物実験責任者職・氏名	准教授 谷 浩行
連絡先内線	62+2469 E-mail: tanisi@vet.osakafu-u.ac.jp

大阪府立大学動物実験規程第8条、第9条及び第11条の規定に基づき、下記のとおり申請します。

※注1 申請書の記載欄の高さ変更及びページ数の増加は可とする。（文字のポイントを小さくしないこと。）

※注2 新規申請の場合で、前回の申請から変更のある場合は、当該箇所を朱書きする。

※注3 当該年度の変更申請は、変更する箇所に1行挿入し、変更前と対比して記入すること。変更後は朱書きする。

また、変更申請する欄を赤枠で囲い、(17)に理由を記載すること。

(1)申請区分	<input type="checkbox"/> 新規申請	当該実験を含む研究の実施予定期間			平成 年 月 日～平成 年 月 日		
	<input type="checkbox"/> 中止申請	中止申請する動物実験の承認番号			動物実験 一 号		
	<input type="checkbox"/> 変更申請（委員会の審査必要）	変更申請する動物実験の承認番号			動物実験 一 号		
	<input type="checkbox"/> 変更申請（委員会の審査不要）	<input type="checkbox"/> 実験実施者の変更のみ		<input type="checkbox"/> 実験動物の系統の変更のみ		<input type="checkbox"/> 委員会の指示による変更	
(2)実験課題名	獣医学臨床実習（実習）						
(3)動物実験責任者・実験実施者・飼養者	区分	所 属	職名・学年	氏 名	登録番号		
	■動物実験責任者	生命環境科学研究所 獣医学専攻	准教授	谷 浩行	生25-研-15 号		
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所 獣医学専攻	教授	笹井和美	生25-研-14 号		
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所 獣医学専攻	助教	古家 優	生25-研-16 号		
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学部	獣医学科 4回生		— — 号		
	<input type="checkbox"/> 実験実施者 <input type="checkbox"/> 飼養者				— — 号		
	<input type="checkbox"/> 実験実施者 <input type="checkbox"/> 飼養者				— — 号		
	<input type="checkbox"/> 実験実施者 <input type="checkbox"/> 飼養者				— — 号		
(4)実施期間	承認後～平成 27年 3月 31日（当該年度末まで）		承認済み実施期間 ※新規申請以外は記入	平成 26年 4月 1日～平成 27年 3月 31日			
(5)施設	飼養保管室	動物 科学 教育 研究 研究 セン タ ー	棟 りんくう キャンパス 号室	実験室	承認番号	動物施設 21-4号、21-8号	
	実験室	りんくう キャンパス	棟 号室 第4実習室	実験室	承認番号	動物施設 21-20号	
(6)使用動物	動物種	系統名	性別	使用頭数/年	微生物学的品質	入手先（導入機関名）	備考
	犬	ビーグル種	雄/雌	8頭（雄4・雌4）/年	コンベンショナル		
(7)動物実験 の種類	<input type="checkbox"/> 試験・研究 ■教育・訓練 <input type="checkbox"/> その他 ()						
(8)特殊実験 区分	<input type="checkbox"/> 病原微生物等取扱い実験		<input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3		<input type="checkbox"/> 委員会へ申請中	<input type="checkbox"/> 承認済（承認番号：BS - 実 - 号）	
	<input type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験		<input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A		<input type="checkbox"/> 委員会へ申請中	<input type="checkbox"/> 承認済（承認番号：D - 号）	
	<input type="checkbox"/> 放射性同位元素使用実験		許可番号 ()				
	<input type="checkbox"/> 覚醒剤原料 <input type="checkbox"/> 特定毒物 ■向精神薬 <input type="checkbox"/> 麻薬 ■劇薬（ <input type="checkbox"/> 指定医薬品 <input type="checkbox"/> 要指示薬品）						
〔該当項目 全てに印〕	管理者氏名	谷 浩行	免許（許可）番号	████████	試薬名	ペントバルビタールナトリウム	バーコード番号
	管理者氏名	谷 浩行	免許（許可）番号	████████	試薬名	塩酸リドカイン	バーコード番号
	<input type="checkbox"/> その他 ()						
(9)実験目的	伝染病を除く小動物の疾患、主に呼吸器・循環器系の疾患、体表・皮膚疾患および消化器系の内科疾患の診断と治療に関する基礎的技術の習得を目的とする						
(10)実験方法	<input type="checkbox"/> 材料採取 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換実験 <input type="checkbox"/> 試料投与 <input type="checkbox"/> 抗体作製 <input type="checkbox"/> 感染実験 <input type="checkbox"/> RI実験 <input type="checkbox"/> 胚操作関連 ■外科的処置 <input type="checkbox"/> 行動の観察 <input type="checkbox"/> 環境ストレス <input type="checkbox"/> 繁殖 <input type="checkbox"/> 特殊飼育 ■その他（超音波画像診断装置を用いた撮像）						

25-71

(11) 実験概要	中動物、特に犬を用いて、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査法、画像診断検査法について実習を行う。						
(12) 動物実験を必要とする理由	<input checked="" type="checkbox"/> 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった <input type="checkbox"/> 検討したが、代替手段の精度が不十分だった <input type="checkbox"/> その他 ()						
(13) 動物実験の妥当性	(注1) 動物実験を行わなければならない理由だけではなく、本実験を行うことによって得られる成果の重要性について記述すること。 (注2) 研究が複数年度にわたる場合は、研究の全体像と当該実験の位置付けが分かるように記述すること。						
(14) 使用動物数の妥当性	中型動物（犬）の生体の取り扱い方法の習熟を目的とした実習であり、他に代替手段がない (各実験処理ごとに使用動物頭数を記載し、(6)使用動物に記載した動物数の妥当性について記述すること。) 犬1頭あたり、少なくとも5名の学生が実習する必要があり、使用動物数は必要最低限以下である。						
(15) 実験方法の内容	実験方法 (動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。)						
内 容	該当SCAWの カテゴリー	麻酔法・麻酔薬等					
■材料採取 採尿（無麻醉にて尿カテーテル（1頭あたり2～3回程度の留置・抜去を行う。）、および超音波画像診断装置の誘導下における細注射針を用いた膀胱穿刺による採尿（1頭あたり2～3回程度穿刺する。））、採血（頸静脈、橈側皮靜脈、サフェナから採血する。1実習・1頭あたり最大10回程度、1回0.5 ml程度採取する。）、経皮穿刺吸引細胞採取（無麻醉、超音波画像診断装置の誘導下において細注射針を用いて肝臓、脾臓を穿刺する。1頭あたり肝臓あるいは脾臓を2～3回程度穿刺する。）の実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量				経路	
□遺伝子組換え実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量				経路	
■試料投与 投薬法（経口投与、経鼻投与、皮下投与、皮内投与、静脈内投与、および、筋肉内投与を実施、投与薬剤は滅菌生理食塩水、投薬用カプセルを用いる）の実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路		
□抗体作製	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量				経路	
□感染実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量				経路	
□RI実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量				経路	
□胚操作関連	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量				経路	

	■外科的処置	皮膚生検（塩酸リドカインの投与による局所麻酔下で1頭あたり2~3部位、3mm径の生検トレパンを使用）を行う。本方法は、一般的に小動物臨床現場にて用いられるすでに確立された方法であり教科書レベルで記載周知されている。これらの実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行う。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生素質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E □ □ ■ □ □	薬剤名 投与量	2%塩酸リドカイン	経路	術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml皮下注射
	□行動の観察		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
	□環境ストレス		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
	□繁殖		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
	□特殊飼育		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
	■その他	超音波画像診断装置を用いて無麻酔下で胸部臓器、腹部臓器の撮像、観察を行う。使用する超音波画像診断装置は人および動物の医療用として用いられているものであり、また、実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生素質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E □ ■ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
(16)想定される苦痛のカテゴリー [総合評価]	<input type="checkbox"/> B 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいは全く不快感を与えないと思われる実験 <input checked="" type="checkbox"/> C 脊椎動物を用い、動物に対し軽度のストレス又は痛み（短期間持続するもの）を伴うと思われる実験 <input type="checkbox"/> D 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレス又は痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験 ※(17)□ 4にチェックを入れ、必要事項を記載すること。 <input type="checkbox"/> E 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い又はそれ以上の痛みを与えると思われる実験						
(17)動物の苦痛軽減、排除の方法	<input type="checkbox"/> 1 短時間の保定・拘束及び注射等、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない <input type="checkbox"/> 2 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない <input checked="" type="checkbox"/> 3 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する <input checked="" type="checkbox"/> 4 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとる等の人道的エンドポイントを考慮する (動物がどのような症状を呈したときに、エンドポイントとするのかについて、具体的に記載すること。) 明らかな臨床症状を示し、回復の見込みのない場合にはペントバルビタールNa投与によって安楽死処置を施す。 <input type="checkbox"/> 5 実験終了後の処置として、安楽死措置をとる。 <input type="checkbox"/> 6 その他	薬剤名	塩酸リドカイン カルプロフェン	投与量	2%塩酸リドカイン : 0.2~1ml カルプロフェン : 2.2 mg/kg	経路	2%塩酸リドカイン : 皮下注射 カルプロフェン : 経口
(18)安楽死の方法 [該当項目全てに印]	<input checked="" type="checkbox"/> 1 麻酔薬等を使用する <input type="checkbox"/> 2 炭酸ガス <input type="checkbox"/> 3 中枢破壊 <input checked="" type="checkbox"/> 4 安楽死させない	具体的に記入 : ○○法 その理由					
(19)動物死体の処理方法	<input type="checkbox"/> 1 飼養保管施設に委託 <input checked="" type="checkbox"/> 2 その他	施設名 具体的に記入					

(20)その他 〔必要又は参考事項〕	平成21年4月1日から平成26年3月31日まで、本学動物実験規程に従い動物実験計画書の提出および承認を得た内容について（動物実験21-73号、一部変更申請承認済（平成22年6月））、新たに申請するものである。
(21)変更理由 〔(1)が変更申請の場合に記入〕	

報告する期間		平成 26年 4月 1日～平成 27年 3月31日			
報告の区分	■計画どおり実施	(記載不要)			
	□実験を中止	中止理由			
	□一部実験を未実施	実施しなかった実験の内容			
	□一部変更して実施	変更内容			
実験の総括	実験内容のまとめ	獣医学科の4回生に対して、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査、画像診断検査について実習を実施した。			
	苦痛の軽減・排除など動物福祉に配慮した点	すべての動物は熟練した獣医師の監視のもと動物福祉のガイドラインに従った方法で行い、飼育期間中は動物愛護にのっとった飼育管理に努めた。事前に一般身体検査を行い、明らかな異常が認められないこと確認の上、実習に用いた。侵襲を伴う実習では、局所麻酔薬（塩酸リドカイン）を適時使用し、また使用頭数を減じ個体の入れ替えを行うことにより一頭あたりが受ける苦痛の軽減を図った。実施期間内の実習を遂行するにあたり、実習後の抗生素質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルブロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等の処置により、明らかな臨床症状を呈した個体は認められなかった。また、動物愛護の観点から、使用個体の減数を目的として、同時期に行われる細胞病態学実習と同一個体を共用した。担当研究室間で実習項目を協議・吟味し、一般的に小動物臨床現場で用いられるすでに確立されたストレスレベルの低い技術を重点的に選択するとともに、同様の実習内容をどちらかの実習で統一して行うことにより、個体に与える苦痛を軽減した。			
	問題点・反省点等	動物実験計画書に従って行い倫理基準カテゴリーの遵守を徹底した。			
実験中に生じた動物管理上の異常	■無 □有 (具体的な事象 :)				
実験動物の種と使用頭数	動物種	系統名	性別	使用頭数／年	備考
	犬	ビーグル種	雄・雌	8頭(雄4・雌4)/年	胎子(誕生前)を使用した場合、母獣の数を記載する。
実験承認時の動物数と年度末報告時の動物数に差が発生した場合の理由					
動物の搬入について 〔動物を搬入した場合記載〕	検疫の結果	■異常無し □異常有り	月	日搬入分 (対処結果 :)	
輸送について	■異常無し □異常有り	月	日搬入分 (対処結果 :)		
実験の成果 〔予定を含む〕	得られた業績を記載する。雑誌論文、図書、工業所有権などについて、著者名、論文課題、雑誌名、巻・年号、発表年、ページ、出版社などを記載 学生実習において、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査、画像診断検査に関する基本的な手技を習得させ、基本原理の理解を深めさせることができた。				

当該年度の3月31日現在において、当該動物実験責任者が飼養保管している全ての動物頭数の報告	動物種	系統名	性別	飼養保管頭数	備考
				0	同じ動物実験責任者が複数の動物実験を実施している場合、実験ごとに提出される報告書のこの欄には、全て同じ内容が記載されることになる。

※自己点検評価・報告の資料とするため、当該動物実験責任者が飼養保管している全ての動物頭数について、併せて調査します。

部局名	生命環境科学研究所	職・氏名	准教授・谷 浩行
-----	-----------	------	----------

動物実験申請書

平成 26年 3月 7日

大阪府立大学長様

部局名(研究科・機構)	生命環境科学研究所 獣医学専攻
分野(研究G)名等	獣医臨床科学分野(獣医内科学研究室)
動物実験責任者職・氏名	教授 笹井和美 印
連絡先内線	2466 E-mail: ksasai@vet.osakafu-u.ac.jp

大阪府立大学動物実験規程第8条、第9条及び第11条の規定に基づき、下記のとおり申請します。

※動物実験責任者が有期雇用の場合は実施期間は有期雇用の期間内とすること。

※変更申請の場合は、変更箇所及び変更内容を赤枠で囲み、(17)に理由を記載すること。

(1) 申請区分	<input type="checkbox"/> 新規申請 <input type="checkbox"/> 変更申請 <input type="checkbox"/> 中止申請 <input type="checkbox"/> 中間報告 <input checked="" type="checkbox"/> 終了報告					承認済み番号	動物実験 21-73 号																													
(2) 研究課題名	獣医科臨床実習(実習)																																			
(3) 研究目的	伝染病を除く小動物の疾患、主に呼吸器・循環器系の疾患、体表・皮膚疾患および消化器系の内科疾患の診断と治療に関する基礎的技術の習得を目的とする																																			
(4) 動物実験及び飼養者	部局名 生命環境科学研究所 獣医学専攻 教授	職名・学年 りんくうキャンパス動物科学教育研究センター棟 准教授	氏名 笹井和美	承認番号 生25-研-14	備考	部局名 生命環境科学研究所 獣医学専攻 助教	職名・学年 生25-研-15	氏名 谷 浩行	承認番号 生25-研-16	備考																										
(5) 実施期間	承認後 ~ 平成 26年 3月 31日(最長5年間)				承認済み実施期間(新規以外)		平成21年 4月 1日~平成 26年 3月 31日																													
(6) 施設名等	飼養保管施設 施設許可番号	りんくうキャンパス動物科学教育研究センター棟 動物施設 21-4号、21-8号				実験室 施設許可番号	りんくうキャンパス第4実習室 動物施設 21-20号																													
(7) 使用動物	動物種 犬	系統名 ビーグル種	性別 雄/雌	頭数/年 8頭/年	頭数/5年 40頭/5年	微生物学的 品質 コンベンショナル	入手先 (導入機関名) なし	備考																												
(8) 研究計画と方法	<p>概要(研究計画と方法について、その概要を記入する)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>材料採取 <input type="checkbox"/>遺伝子組換実験 <input checked="" type="checkbox"/>試料投与 <input type="checkbox"/>抗体作製 <input type="checkbox"/>感染実験 <input type="checkbox"/>RI実験 <input type="checkbox"/>胚操作関連 <input checked="" type="checkbox"/>外科的処置 <input type="checkbox"/>行動の観察 <input type="checkbox"/>環境ストレス <input type="checkbox"/>繁殖 <input type="checkbox"/>特殊飼育 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査、画像診断検査について実習を行う。</p> <p>実験方法(動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>該当SCAWの カテゴリー</th> <th>麻酔法・麻酔薬等 (具体的な薬剤名及びその投与量・経路)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■材料採取 採尿(無麻酔にて尿カテーテルによる採尿)、採血(頸静脈、橈側皮靜脈、サフェナから採血する)の実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>□遺伝子組換実験</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>■試料投与 投薬法(経口投与、経鼻投与、皮下投与、皮内投与、静脈内投与、および筋肉内投与を実施、投与薬剤は滅菌生理食塩水、尿路造影剤(静脈内投与のみ)投薬用カプセルを用いる)の実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>□抗体作製</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>□感染実験</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>□RI実験</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>□胚操作関連</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>■外科的処置 皮膚生検(塩酸リドカインの投与による局所麻酔下)を行う。本方法は、一般的に小動物臨床現場にて用いられるすでに確立された方法であり教科書レベルで記載周知されている。これらの実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行う。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。</td> <td>A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> <td>塩酸リドカイン、術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml皮下注射</td> </tr> </tbody> </table>									内 容	該当SCAWの カテゴリー	麻酔法・麻酔薬等 (具体的な薬剤名及びその投与量・経路)	■材料採取 採尿(無麻酔にて尿カテーテルによる採尿)、採血(頸静脈、橈側皮靜脈、サフェナから採血する)の実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	なし	□遺伝子組換実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		■試料投与 投薬法(経口投与、経鼻投与、皮下投与、皮内投与、静脈内投与、および筋肉内投与を実施、投与薬剤は滅菌生理食塩水、尿路造影剤(静脈内投与のみ)投薬用カプセルを用いる)の実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	なし	□抗体作製	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		□感染実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		□RI実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		□胚操作関連	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		■外科的処置 皮膚生検(塩酸リドカインの投与による局所麻酔下)を行う。本方法は、一般的に小動物臨床現場にて用いられるすでに確立された方法であり教科書レベルで記載周知されている。これらの実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行う。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	塩酸リドカイン、術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml皮下注射
内 容	該当SCAWの カテゴリー	麻酔法・麻酔薬等 (具体的な薬剤名及びその投与量・経路)																																		
■材料採取 採尿(無麻酔にて尿カテーテルによる採尿)、採血(頸静脈、橈側皮靜脈、サフェナから採血する)の実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	なし																																		
□遺伝子組換実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																																			
■試料投与 投薬法(経口投与、経鼻投与、皮下投与、皮内投与、静脈内投与、および筋肉内投与を実施、投与薬剤は滅菌生理食塩水、尿路造影剤(静脈内投与のみ)投薬用カプセルを用いる)の実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	なし																																		
□抗体作製	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																																			
□感染実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																																			
□RI実験	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																																			
□胚操作関連	A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																																			
■外科的処置 皮膚生検(塩酸リドカインの投与による局所麻酔下)を行う。本方法は、一般的に小動物臨床現場にて用いられるすでに確立された方法であり教科書レベルで記載周知されている。これらの実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医学に用いられる技術の範囲内で行う。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルプロフェン 2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床の見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	塩酸リドカイン、術野あたり2%塩酸リドカインを0.2~1ml皮下注射																																		

<input type="checkbox"/> 行動の観察		A B C D E □ □ □ □ □	
<input type="checkbox"/> 環境ストレス		A B C D E □ □ □ □ □	
<input type="checkbox"/> 繁殖		A B C D E □ □ □ □ □	
<input type="checkbox"/> 特殊飼育		A B C D E □ □ □ □ □	
<input type="checkbox"/> その他		A B C D E □ □ □ □ □	

整理番号 13

部局実験動物管理者の書類確認 〔押印省略〕	職・氏名	教授・田中 利也
	年月日	平成27年3月9日

平成27年度 ■動物実験申請書 □実施状況報告書

平成27年3月9日

大阪府立大学長様

部局名（研究科・機構）	生命環境科学研究所
分野（研究G）名等	獣医臨床科学分野（獣医学内科学研究室）
動物実験責任者職・氏名	准教授 谷 浩行 <small>（印）南島監査中は押印省略可 長へ提出時は必ず押印</small>
連絡先内線	リ2469 E-mail : tanisi@vet.osaka-u.ac.jp

大阪府立大学動物実験規程第8条、第9条及び第11条の規定に基づき、下記のとおり申請します。

※注1 申請書の記載欄の高さ変更及びページ数の増加は可とする。（文字のポイントを小さくしないこと。）

※注2 新規申請の場合で、前回の申請から変更のある場合は、当該箇所を朱書きする。

※注3 当該年度の変更申請は、変更する箇所に1行挿入し、変更前と対比して記入すること。変更後は朱書きする。

また、変更申請する欄を赤枠で囲い、(17)に理由を記載すること。

(1) 申請区分	■新規申請	当該実験を含む研究の実施予定期間			平成27年4月1日～平成28年3月31日			
	□中止申請	中止申請する動物実験の承認番号			動物実験 一 号			
	□変更申請（委員会の審査必要）	変更申請する動物実験の承認番号			動物実験 一 号			
	□変更申請（委員会の審査不要）	□実験実施者の変更のみ □実験動物の系統の変更のみ □委員会の指示による変更						
(2) 実験課題名	獣医学内科学実習（獣医学類4年生通年）							
(3) 動物実験責任者・実験実施者・飼養者	区分	所属	職名・学年	氏名	登録番号			
	■動物実験責任者	生命環境科学研究所	准教授	谷 浩行	生26-研-51号			
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所	教授	稻葉俊夫	生26-研-24号			
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所	教授	笹井和美	生26-研-50号			
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所	准教授	杉浦喜久弥	生26-研-25号			
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所	准教授	鳩谷晋吾	生26-研-26号			
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学研究所	助教	古家 優	生26-研-52号			
	■実験実施者 ■飼養者	生命環境科学域	獣医学類・4年生	50名	別紙添付			
□実験実施者 □飼養者				— — 号				
(4) 實施期間	承認後～平成28年3月31日（当該年度末まで）			承認済み実施期間 ※新規申請以外は記入	平成 年 月 日～平成 年 月 日			
(5) 施設	飼養保管室	りんくう キャンパス	動物 科学 教育 研究 セン ター	C-124 C-125 号室	飼育室5(イス) 実習用産官学連 携飼育室(イス)	実験室	承認番号	動物施設 27-23 号 動物施設 27-24 号
	実験室	りんくう キャンパス	棟 B-301	号室 第4実習室	実験室	承認番号	動物施設 27-47 号	
(6) 使用動物	動物種	系統名	性別	使用頭数/年	微生物学的品質	入手先（導入機関名）	備考	
	犬	ビーグル種	雄/雌	8頭(雄4・雌4)/年	コンベンショナル			
(7) 動物実験の種類	□試験・研究 ■教育・訓練 □その他 ()							
(8) 特殊実験区分 〔該当項目全てに印〕	□病原微生物等取扱い実験		□BSL1 □BSL2 □BSL3		□委員会へ申請中	□承認済（承認番号：BS - 実 - 号）		
	□遺伝子組換え実験		□P1A □P2A		□委員会へ申請中	□承認済（承認番号：D - 号）		
	□放射性同位元素使用実験		許可番号 ()					
	□覚醒剤原料 □特定毒物 ■向精神薬 □麻薬 ■劇薬 (■指定医薬品 ■要指示薬品)							
	管理者氏名	谷 浩行	免許(許可)番号		試薬名	ペントバルビタールナトリウム	バーコード番号	未購入、向精神薬、劇薬
	管理者氏名		免許(許可)番号		試薬名	塩酸リドカイン	バーコード番号	未購入、劇薬、処方箋医薬品
	管理者氏名		免許(許可)番号		試薬名	カルプロフェン	バーコード番号	未購入、劇薬、指定医薬品、要指示医薬品
	□その他		()					

(9) 実験目的	中動物の生体の取り扱い方法の習熟、および内科疾患の中で、血液疾患、内分泌疾患、循環呼吸器疾患、体表・皮膚疾患、泌尿器疾患および消化器疾患の診断と治療に関する基礎的知識・技術の習得を目的とする。						
(10) 実験方法	<input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験 <input type="checkbox"/> 試料投与 <input type="checkbox"/> 抗体作製 <input type="checkbox"/> 感染実験 <input type="checkbox"/> RI実験 <input type="checkbox"/> 胚操作関連 <input checked="" type="checkbox"/> 外科的処置 <input type="checkbox"/> 行動の観察 <input type="checkbox"/> 環境ストレス <input type="checkbox"/> 繁殖 <input type="checkbox"/> 特殊飼育 <input checked="" type="checkbox"/> その他(超音波画像診断装置を用いた撮像)						
(11) 実験概要	中動物、特に犬を用いて、動物の保定法、投薬法、採血法、一般身体検査法、臨床病理学的検査法、画像診断検査法について実習を行う。						
(12) 動物実験を必要とする理由	<input checked="" type="checkbox"/> 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった <input type="checkbox"/> 検討したが、代替手段の精度が不十分だった <input type="checkbox"/> その他 ()						
(13) 動物実験の妥当性	<small>(注1) 動物実験を行わなければならない理由だけではなく、本実験を行うことによって得られる成果の重要性について記述すること。)</small> <small>(注2) 研究が複数年度にわたる場合は、研究の全体像と当該実験の位置付けが分かるように記述すること。)</small> 対象とする動物へのストレスを最小限に、且つ、安全に検査・治療を行う技術を習得するためには、熟達した獣医師の指導下において、実際に生体を取り扱うことが必須であり、動物の使用は不可避である。本実習は獣医学類の必修科目であり、小動物獣医療あるいは実験動物としても取り扱う機会の多い犬について、生体の取り扱い方法の習熟、および各種臨床検査法・治療法について講義内容の理解、基礎的知識の定着、要求される基本技術を習得することができる。						
(14) 使用動物数の妥当性	(各実験処理ごとに使用動物頭数を記載し、(6) 使用動物に記載した動物数の妥当性について記述すること。)						
(15) 実験方法の内容	実験方法(動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。)						
	内 容	該当SCAWの カテゴリー	麻酔法・麻酔薬等				
■材料採取	採尿(無麻酔にて尿カテーテル(1頭あたり2~3回程度の留置・抜去を行う。)、および超音波画像診断装置の誘導下における細注射針を用いた膀胱穿刺による採尿(1頭あたり2~3回程度穿刺する。))、採血(頸静脈、橈側皮靜脈、サフェナから採血する。1実習・1頭あたり最大10回程度、1回0.5 ml程度採取する。)、経皮穿刺吸引細胞採取(無麻酔、超音波画像診断装置の誘導下において細注射針を用いて肝臓、脾臓を穿刺する。1頭あたり肝臓あるいは脾臓を2~3回程度穿刺する。)の実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルブロフェン2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	
□遺伝子組換え実験		A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	
■試料投与	投薬法(経口投与、経鼻投与、皮下投与、皮内投与、静脈内投与、および、筋肉内投与を実施、投与薬剤は滅菌生理食塩水、投薬用力プセルを用いる)の実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質(セファレキシン20mg/kg経口)、鎮痛剤(カルブロフェン2.2mg/kg経口)、外用薬(イソジン外用薬)等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	
□抗体作製		A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	
□感染実験		A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	
□RI実験		A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	
□胚操作関連		A B C D E <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	薬剤名 投与量			経路	

■外科的処置	皮膚生検（塩酸リドカインの投与による局所麻酔下で1頭あたり2~3部位、3mm径の生検トレパンを使用）を行う。本方法は、一般的に小動物臨床現場で用いられるすでに確立された方法であり教科書レベルで記載周知されている。これらの実習は、熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行う。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E □ □ ■ □ □	薬剤名 投与量	塩酸リドカイン 術野あたり2%塩酸 リドカイン注射液 を0.2~1ml	経路	皮下注射
□行動の観察		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
□環境ストレス		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
□繁殖		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
□特殊飼育		A B C D E □ □ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
■その他	超音波画像診断装置を用いて無麻醉下で胸部臓器、腹部臓器の撮像、観察を行う。使用する超音波画像診断装置は人および動物の医療用として用いられているものであり、また、実習は熟練した獣医師の監視のもと、一般的な小動物獣医療に用いられる技術の範囲内で行われるため、動物に対して、強い不快感を与えることはない。動物に苦痛等が認められた場合、実習を中止し、必要に応じて抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等を処置する。治療処置は獣医臨床的見知から治癒が認められるまで継続する。尚、施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合は、人道的見知から安楽死措置を取る。	A B C D E □ ■ □ □ □	薬剤名 投与量		経路	
(16)想定される苦痛のカテゴリー〔総合評価〕	□ B 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいは全く不快感を与えないと思われる実験 ■ C 脊椎動物を用い、動物に対し軽度のストレス又は痛み（短期間持続するもの）を伴うと思われる実験 □ D 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレス又は痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験 ※(17)□4にチェックを入れ、必要事項を記載すること。 □ E 無麻醉下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い又はそれ以上の痛みを与えると思われる実験					
(17)動物の苦痛軽減、排除の方法	□ 1 短時間の保定・拘束及び注射等、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない □ 2 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない ■ 3 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する 薬剤名 塩酸リドカイン カルプロフェン 投与量 術野あたり2%塩酸リドカイン注射液を0.2~1ml 2.2 mg/kg 経路 皮下注射 経口投与 ■ 4 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとる等の人道的エンドポイントを考慮する （動物がどのような症状を呈したときに、エンドポイントとするのかについて、具体的に記載すること。） 明らかな臨床症状を示し、回復の見込みのない場合にはペントバルビタールナトリウム投与によって安楽死処置を施す。 □ 5 実験終了後の処置として、安楽死措置をとる。 □ 6 その他 具体的に記入					
(18)安楽死の方法〔該当項目全てに印〕	■ 1 麻酔薬等を使用する □ 2 炭酸ガス □ 3 中枢破壊 □ 4 安楽死させない その理由	薬剤名 ペントバルビタールナトリウム 投与量 50mg/kg 経路 静脈内投与	実習中の施術により起立困難などの重篤な状態に陥り、治療に対する反応に乏しい場合の人道的見知から行う安楽死措置を除き、本実習では安楽殺を行わず他の実習（獣医解剖学実習）に使用する。動物愛護の観点から、飼育に伴うストレスを最小限にするため、綿密な日程調整を行い、本実習終了後、出来るだけ速やかに受け渡しを行う。なお飼育期間中は動物愛護にのっとった飼育管理に努め、明らかな臨床症状を呈した場合、抗生物質（セファレキシン20mg/kg経口）、鎮痛剤（カルプロフェン 2.2mg/kg経口）、外用薬（イソジン外用薬）等の処置により治癒するまで治療を継続する。			
(19)動物死体の処理方法	□ 1 飼養保管施設に委託 ■ 2 その他	施設名 具体的に記入	家畜保健衛生所にて焼却（安楽死が必要な場合）			

(20) その他 〔必要又は参考事項〕	本動物実験申請は、平成27年3月31日まで、本学動物実験規程に従い動物実験計画書の提出および承認を得た2つの実習科目について（動物実験25-71号、動物実験25-77号）、カリキュラムの変更により、新たに通年1実習として申請するものである。
(21) 変更理由 〔(1)が変更申請の場合に記入〕	

該実験の実施状況報告書	報告する期間		平成 年 月 日～平成 年 3月31日			
	報告の区分	<input type="checkbox"/> 計画どおり実施	(記載不要)			
		<input type="checkbox"/> 実験を中止	中止理由			
		<input type="checkbox"/> 一部実験を未実施	実施しなかった実験の内容			
		<input type="checkbox"/> 一部変更して実施	変更内容			
	実験の総括	実験内容のまとめ				
		苦痛の軽減・排除など動物福祉に配慮した点				
		問題点・反省点等				
	実験中に生じた動物管理上の異常	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (具体的な事象:)				
	実験動物の種と使用頭数	動物種	系統名	性別	使用頭数／年	備考
					胎子（誕生前）を使用した場合、母獣の数を記載する。	
実験承認時の動物数と年度末報告時の動物数に差が発生した場合の理由						
動物の搬入について 〔動物を搬入した場合は記載〕	検疫の結果	<input type="checkbox"/> 異常無し <input type="checkbox"/> 異常有り	月 日搬入分	(対処結果:)		
	輸送について	<input type="checkbox"/> 異常無し <input type="checkbox"/> 異常有り	月 日搬入分	(対処結果:)		
実験の成果 〔予定を含む〕	得られた業績を記載する。雑誌論文、図書、工業所有権などについて、著者名、論文課題、雑誌名、巻・年号、発表年、ページ、出版社などを記載					

当該年度の3月31日現在において、当該動物実験責任者が飼養保管している全ての動物頭数の報告	動物種	系統名	性別	飼養保管頭数	備考
					同じ動物実験責任者が複数の動物実験を実施している場合、実験ごとに提出される報告書のこの欄には、全て同じ内容が記載されることになる。

※自己点検評価・報告の資料とするため、当該動物実験責任者が飼養保管している全ての動物頭数について、併せて調査します。

部局名	生命環境科学研究所	職・氏名	准教授・谷 浩行
-----	-----------	------	----------

府大教推第 1004 号
平成 27 年 4 月 1 日

生命環境科学研究科長 様

大阪府立大学長

動物実験計画の申請について（通知）

平成 27 年 3 月 9 日付けの下記申請については承認 とする。

記

研究科・学部等、 専攻等、研究室等	生命環境科学研究科
職名・実験責任者	准教授 谷 浩行
承認年月日・承認番号	平成 27 年 4 月 1 日 動物実験 27 - 13 号
有効期間	承認後～平成 28 年 3 月 31 日
課題名	獣医内科学実習（獣医学類 4 年生通年）
備考	0